



音楽のよろこび

2022年6月20日 No.42
 発行文責 担当事務局
 田中 正恭

もう6月。3回目の今日は当初「ヴァイオリン」の予定でしたが、それに大きくプラスして、ピアノトリオ（ヴァイオリン・チェロ・ピアノの三重奏）という豪華版となりました。ヴァイオリン 松谷由美さん、チェロ 渡邊正和さん、そしてピアノは小林千恵さんです。ピアノトリオというジャンルは、この講座6年目にしてはじめて今日実現することになりました。この三つの楽器による重奏は、ピアノがリードしつつも二つの弦楽器と協奏的に合奏するもので、今日演奏予定のハイドン（Franz Joseph Haydn 1732～1809 オーストリア）そしてモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトはもちろん、その後に続くたくさんの作曲家が、名曲と呼ばれる作品を世に出してきたといえると思います。

今日のプログラムは17世紀終わりから20世紀までのピアノトリオの名曲を聴く流れのように見えますが…。またヴァイオリン、チェロのピアノを伴ったソロも…嬉しいですね。

それでは、楽しく聴かせていただきますよう。

♪ 前回 5/23 ファゴットとピアノ ♪

何人もの方がアンケートで、今回はじめてファゴットの独奏を聴き、その音の柔らかさと暖かさを、よく知っている日本のうた（浜辺の歌・ふるさと・夕焼け小焼け等）の演奏で知ったと述べられています。その事良かったと思います。一曲一曲にととても分かりやすい丁寧なお話、初めての曲でもスッと体に入るように聴けたのだと思います。そして音域がチェロとほぼ同じファゴット。チェロ用楽譜を使うというアイデアの中野さん…なるほどでした。（ふり返りは別紙にて…）



ファゴットの柔らかく包容力のある気品のある音色、松田みゆきさんのピアノソロ演奏、素晴らしかったです。今後もファゴットを身近に感じていただければと思います。

ファゴット 中野 陽一郎さん
 ピアノ 松田 みゆきさん

ありがとうございました。



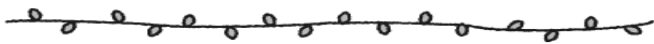


～アンケートから～

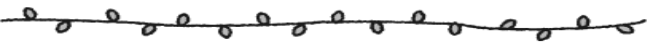
いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したのもの
もあります。ご了承ください。



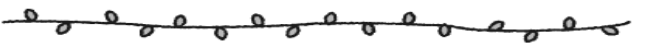
暖かくやわらかい音色ですばらしいと思
いました。日本の歌がピタシと再確認しまし
た。（久保和己さま）



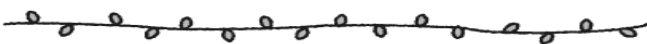
良かった！癒され心がゆったりと。明日か
ら元気に又！是非ファゴットさん達で、チェ
ロさん達のようにコンサートしてほしい。



とてもわかりやすく、面白かった。あまり
なじみがなかったが、少し親しみがわいた。
ありがとうございました。
やわらかい音色に包まれ、幸せな時を過
ごせました。ピアノ、音色・視覚とも楽
しませていただきました。



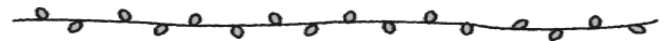
ファゴットの優しい音色に癒されました。
演奏者の方の優しさがにじみ出ていたよう
に感じ、温かい気持ちになりました。ありが
うございます。



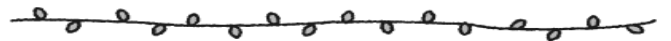
ファゴットを間近に見るのは初めてでした。
思ったより大きくてカッコいいですね。音も
やさしくて素敵でした。ファゴット協奏曲、
ピアノとのデュオのような感じが素敵でした。
ファゴットの音域の広いのにもびっくりしま
した。低い音と高い音の表情が違うのもおも
しろいなと思いました。（杉浦智子さま）

ファゴットの独奏初めて拝聴。生演奏の迫力
を体で感じました。この講座2回目ですが来る
のが楽しみです。ファゴットのやわらかな音色、
快く聴きほれました。低音もお腹に響きわたる
様でした。ピアノ演奏も聴くことができ幸せ一
杯の気持ちです。

オーケストラをバックにしたファゴットの協
奏曲、聴きたくなりました。協奏曲って何だろ
うと思ってましたが、本日の説明で分かり、戦
前生まれで音楽になじみ薄い生活でしたが、少
しずつ音楽に親しみ気持ちが豊かになってきて
います。



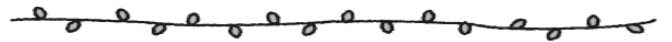
ファゴットの魅力的な音色にしばれました。
すばらしいピアノも聴けて良かったです。プ
ログラムの構成も良かったです。白鳥の演奏
すばらしかったです。（尾村さま）



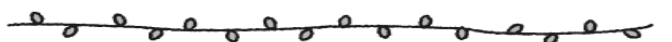
松田みゆきさんの力強くて繊細なピアノ、
素晴らしかったです。特にモーツァルトのトル
コ行進曲をジャズっぽくアレンジした曲が
新鮮でした。

ファゴットという楽器は「のだめカンタービ
レ」で知り、興味を持ちました。でも間近で
見たのは初めてで、意外と大きくて、そして
重たい楽器だと知りました。

最後の質問コーナーで、サンサーンスの「白
鳥」を演奏してほしいという無茶ぶりにも、
応えてくれありがとうございました。



ファゴット、初めて見て音を聴きました。
とても良い音を感じました。ウェーバーの
協奏曲はリズム感もあり、難しくなく、ピ
アノの協奏もよく楽しく聴かせていただき
ました。

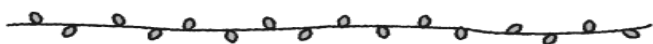


ファゴット、見るのも音色を聴くのも初
めてでした。とてもやわらかくて、のびや
かな音色で心に響きました。
ピアノとの協奏もとても素敵でした。やっ
ぱり音楽は生で聴くのは素晴らしいですね。

ピアノの松田さんのトークが面白かった。パリのラベルの家を訪ねられて、愛用のピアノを演奏されたとのこと、彼の身長に合わせて天上が低い部屋だったの通常では知りえない話に感動。

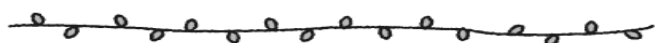
ファゴットの演奏は聴いたことがなかったので、やわらかい音色に感動。

中野さんのトークもさわやかで5月の風のように素晴らしかった。やはり3部の日本のメロディーがすんなりと心に入り素晴らしかったです。(来住徳郎さま)

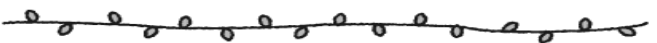


金管と異なり、ファゴットの音はとても優しい音色で、最初から幸せな気持ちになりました。子犬のワルツは自分でも練習していますが、テンポ感、軽さ 全く異なりさすがとうなってしまう。トルコ行進曲もとても面白い編曲、ありがとうございました。

ファゴットのリードを自分で作られているとのこと、いとも簡単に心地よい音を出されていると聴いていましたので、びっくりです。おかげでファゴットがとても近い楽器になりました。質問の時間もしっかりとっていただき、ありがとうございました。(東村陽子さま)



オーケストラ演奏の時、ファゴットは音楽にどのような表情を加えるのでしょうか。サンサーンスのチェロ部門の演奏素晴らしかったです。(鶴谷美佐保さま)



ファゴット協奏曲のピアノ版、すばらしかったです。オーケストラ版も聴きたくなりました。

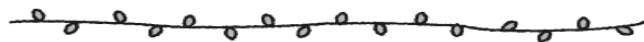
来年度講座についてのご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。



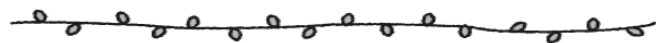
- 来年度もぜひファゴットを…
- 指揮者の方も呼びいただければ…
- 作曲家にフォーカスした講座を…
- オーボエ・マリンバ・ハーブ 等々…

本日の「ファゴット」こんなに近くで楽器を観たのは初めてでした。もちろん単独での音をこんなに聴いたのも初めてでした。ファゴットがこんなに魅力的な楽器だったとは…！今頃気が付いてすみません。オーケストラの中に必ずいらしたのに。これからの演奏会が楽しみになりました。

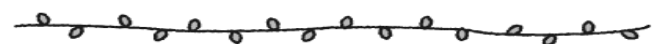
松田さんのピアノがまた素敵でした。聞き入ってしまうことが何度もありました。すばらしい音色をありがとうございました。



以前からファゴットは好きでしたが、こんな近くで生演奏が聴けてとてもうれしいです。ピアノも素敵でした。ジャズ風トルコ行進曲初めてです。ありがとうございました。



ファゴットという楽器の奥深さが分かって良かった。ファゴットの仕組みの説明も興味深かった。



ピアノの小品の独奏が聴けてサプライズで楽しかったです。トルコ行進曲の編曲が、**ファジル・サイ**という方でいつもと違う印象でした。ピアノの指の動きが見える席を取るのに早く来てよかったです。ファゴットは、低い音が落ち着いていて安心できる響きでした。協奏曲の第3楽章は元気を取り戻した男の人の様で亡くなった父を思い出しました。

日本の歌曲に音色や低音がよく合い哀愁こもる演奏でした。気持ちが落ち着きました。この頃不安なことが多いので。

(外村律子さま)

ファジル・サイ

1970年生まれ、トルコ・アンカラ出身のピアニスト/作曲家。アンカラ国立音楽院、デュッセルドルフのシューマン音楽院、ベルリン音楽院で学び、94年のヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝

日本では「鬼才!天才!ファジル・サイ!」のキャッチコピーで知られる。



♪ 音楽に関する文学的成句 ♪ マクシム・ゴーリキー（1868～1936）ロシアの作家



すべてのものがまどろんでいる。けれどもそれは緊張した、浅い眠りである。だから次の瞬間には、すべてのものがいちどにパッと飛び起きて、いっせいに、ひどく調子のいい、なんともいえない甘い美しい音楽を、かなでそのではないかと思われる。その楽の音は、世界の秘密を語ってきかせ、その秘密の知恵をかき消してしまふ。そして、やがてこんどは幻の火のようになちまちそれをかき消してしまふ。そして、やがてこんどは幻の火のしれぬ大空の高みに連れ去っていく。すると大空では、無数の星が眼をばちばちさすであらう……

（一八九五年作）

この文章は、ロシアの作家、マクシム・ゴーリキー（1868～1936）の1890年代ロマン主義的人間賛歌を基調とした作品群の一つ「鷹の歌」（1895年作）の最後の部分です。黒海の海の波の打ち寄せる海岸での二人の男の対話と、その一人、クリミア人の羊飼いの老賢者の語り…全編が詩的な文章で、岩波文庫11ページの短編ですが、私にとっては大変密度濃い、絵画的、音楽的なものを感じられるのです。ゴーリキーはこの作品のあと、1901年には当時100万部が世に出たという「海つばめの歌」を書くのです。しかしこの作品を掲載した雑誌「生活」社は、ロシア・ツァーリの検閲当局により、閉鎖処分となるのです。当時のロシアの近辺をながめると、今、政治的に大きな転換をしようとしているフィンランドは、そのころ1805年以来帝政ロシアの支配下にあり、その支配から脱却を目ざす民族運動が高まっていました。それを大きく励ましたのは、1899年ヤン・シベリウス作曲の「フィンランディア」だったと言います。この曲は1899年ヘルシンキ初演時は無タイトル、しかし翌1900年改訂し「フィンランディア（フィンランド頌歌の意）」とタイトルされ演奏されました。そして、当時のロシア帝国ツァーリは、この曲があまりにフィンランドの人の民族意識を鼓舞するとの理由で演奏禁止としたのです。そのような時代に生きた若きゴーリキー、もし彼が今生きていたら、今、次のウクライナへのプーチンロシアのふるまいや、国内での反対派への弾圧、マスコミや芸術家を含む文化人への抑圧と統制をどう評価するでしょうか。



次回は7月25日(月)

鴨沂会館 A/Bとも 13:00開場 13:30～15:30

「ヴァイオリン&コントラバス」

ヴァイオリン	田村 安祐美 さん
	加井 夕ツ
コントラバス	神吉 正 さん

2年前DVDで講座をしていただいたお二人です。ヴァイオリンとコントラバスの組み合わせを、今回は生で！！

